

土台（プラットフォーム）



朝、駅のプラットフォームに立つと、さまざまな人々の姿が目に入ります。仕事へ向かうビジネスマン。部活動の道具を抱えた学生。大きな荷物を手にした観光客。登山の装備を整えた登山客。そして、小さな手をつないで歩く親子連れ。同じホームに立ちながらも、それぞれが異なる目的地を目指しています。その光景を眺めていると、プラットフォームとは単に列車を待つ場所ではなく、人と人が交わり、新たな一步を踏み出すための「出発点」なのだと感じます。

「プラットフォーム」という言葉は、本来、「土台」や「基盤」という意味をもっています。八王子市教育プラットフォーム「ハプラ（はちぶら）」もまた、子供たちの学びを支える大切な土台です。ハプラは、単なる学習ソフトや情報ツールではありません。子供たちが自ら学び、仲間とつながり、可能性を広げていくための学びの基盤です。

学びの土台（プラットフォーム）の上で、自ら調べ、考え、伝える力を育む子供たち。八王子市では、ICTを活用しながら、一人一人の子供が主体的に学び、多様な人々と協働し、これからの社会を生き抜く力を育むことを目指しています。



この考え方は、本校が大切にしている教育と重なっています。散田小学校では、「未知（道）を楽しむ力」「ふるさとを誇る心」「響き合い支え合う学校」を教育活動の柱としています。答えが一つではない時代だからこそ、自ら問いをもち、考え、仲間と学び合いながら、新しい価値を創り出していく力が求められています。こうしたハプラの理念や目指す学びは、特別な活動の中だけにあるものではありません。子供たちの日常の学校生活の中に息づいています。

例えば、給食の時間には、放送委員会が小林副校長先生と相談しながら「ハプラクイズ」を企画しています。『学びのページから！高尾山に植えられているたくさんの木は、次のうちどれでしょう？①杉 ②柿 ③桜』など、ハプラ週間として取り組んでいます！みなさんも、一緒に考えてみてください。

また、最近、放課後子ども教室の時間になると、6年生が学習用端末を抱えて校長室を訪ねてくることがあります。



「校長先生！国語のパネルディスカッションの発表を聞いてください。」
「理科のまとめのプレゼンを作ったので、見てください！」
そして発表を終えた子供たちの表情を見ていると、
「私のプレゼン、どーだい！」そんな声が聞こえてくるような気がします。

子供たちが安心して挑戦し、自分の考えを堂々と表現できる。そのための土台（プラットフォーム）を、これからも大切に育んでいきたいと思えます。そして何より、放課後になると、ふらっと校長室にやってきて、「校長先生、見てください！」と目を輝かせる子供たちの姿が楽しみの一つとなっています。